

二〇一六年五月二三日 三位一体の主日

第一朗読 ★1 箴言 8・22-31

大地に先立つて、知恵は生みだされていた

22 主は、★2 その道の初めにわたしを造られた。いにしえの

御業になお、先立つて。

23 永遠の昔、わたしは祝別されていた。太初、大地に先立つて。

24 わたしは生み出されていた

★3 深淵も水のみなきる源も、まだ存在しないとき。

25 山々の基も据えられてはおらず、丘もなかったが
わたしは生み出されていた。

26 大地も野も、地上の最初の塵も
まだ造られていなかった。

27 わたしはそこにいた

主が天をその位置に備え

深淵の面に輪を描いて境界とされたとき

28 主が上から雲に力をもたせ

深淵しんえんの源みなもとに勢いきおいを与あたえられたとき

29 この原始げんしの海うみに境界きょうがいを定め

水みづが岸きしを越こえないようにし

大地だいちの基もとを定められたとき。

30 御みもとにあつて、わたしは巧たくみな者ものとなり

日々ひび、主しゅを樂たのしませる者ものとなつて

絶たえず主しゅの御前みまえで樂がくを奏かなでし

31 ★4 主しゅの造つくられたこの地上ちじょうの人々ひとびとと共に樂たのを奏そし

人ひとの子こらと共に樂たのしむ。

(注) 注積ちゆうじやくはバルバローデル・コル訳やく「旧約・新約聖書」一九六四

年ねんを参照さんしやう

★1 箴言しんげんの書しよについて

カトリックでは「箴言」を「格言の書」といいます。格言かくげんの書しよは

ブライ人の間あひだで、以前いぜんからあつた格言かくげんを集あつめたものです。この

格言かくげんの大部分だいぶぶんがサロモンのことばなので、サロモンかくげんしゆうの格言集しゆうとも

いわれています。

八章はちしやうの二十二節にじふにせつから三十一節さんじゅういちせつは、「創造そつぞうのときの神かみの知恵ちえ」

という見出しがついており、「知恵」が天地創造のときに、全てのものが作られる前に作られていたことを伝えていきます。

★2 その道の初めに↓天地創造のはじめに

バルバローデル訳では、二十二節は「神はそのみわざをはじめたときから、はじめのみわざより早く、わたしを有しておられた」と訳しております。

★3 深淵も水のみなざる源も存在しない

イスラエルは、この世が水のふちによって成り立っており、そこに境がおかれ、半円の天がかぶせられたと思っております(創一章一節以下、図参照)。

したがってふち(深淵)も水そのものもないということは、天地が作られる前の様子を言っています。

★4 バルバローデル・クル訳では、三十一節を「私は、地の上で遊び、人の子と交わることを楽しみとした」と訳しています。

「私」は神と同じ属性を持っているようにも思われるので、神学者たちは、三位一体を思わせる内容であると考えているようです。(注)属性↓そのものしか持っていない特徴や性質という意味です。

